

# 麦有機栽培の雑草発生の特徴と雑草量低減技術

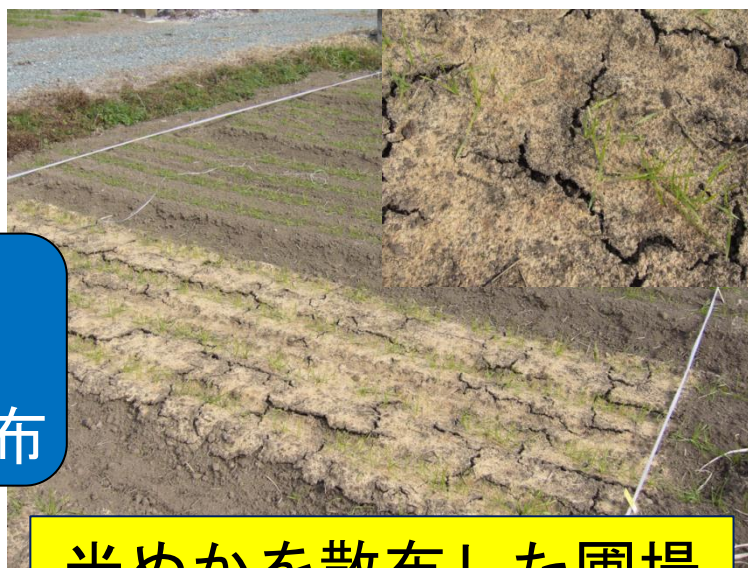
## 目的と特徴

- ・ 麦を有機栽培した時の雑草発生の特徴と除草剤を使わずに雑草を減らす技術を検討しました。
- ・ 麦を有機栽培すると一般的な圃場に比べて多様な雑草が発生、残草します。
- ・ 水稻収穫後に耕起を2～3回行う、麦の播種時期を少し遅らせる、麦播種後に米ぬかを400kg/10a以上で土壌表面に散布するなどをを行うと雑草量を減らすことができます。



有機栽培では多様な  
雑草が繁茂

- ・ 水稻収穫後に耕起
- ・ 播種時期を遅らせる
- ・ 麦播種後に米ぬか散布



米ぬかを散布した圃場

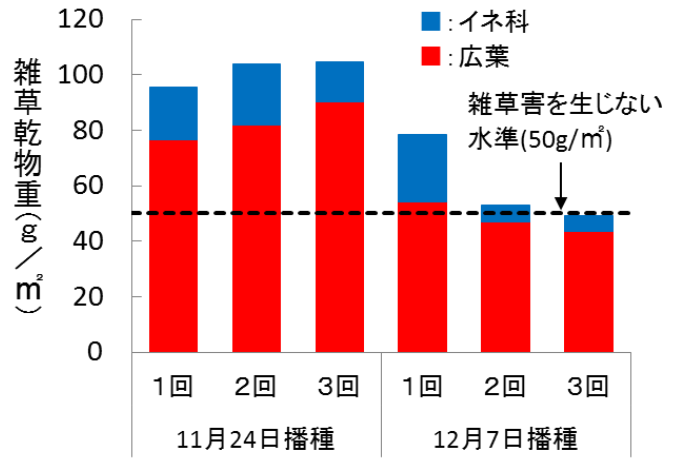
雑草害が出ない程度に雑草量を減らすことが可能

## 成果

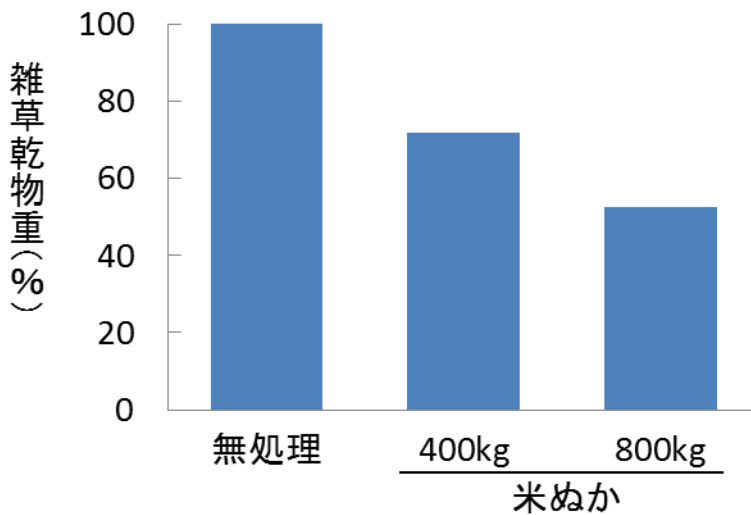
- ・ 麦の有機栽培圃場では、8～9種類の多様な雑草が繁茂します。
- ・ 水稻収穫後、麦播種までに2～3回耕起し、麦播種を遅らせると雑草害が出ない程度に雑草量を減らすことができます。
- ・ 麦播種後に米ぬかを400kg/10a以上散布すると30%以上雑草を減らすことができます。

圃場A	圃場B
ヤエムグラ	スギナ
タデ類	ミチヤナギ
スズメノテッポウ	タデ類
カズノコグサ	アメリカフウロ
スズメノカタビラ	スズメノテッポウ
ハナイバナ	ヤエムグラ
ミチヤナギ	ノミノフスマ
ママコノシリヌグイ	スズメノカタビラ
	ハナイバナ

有機栽培している麦栽培圃場に  
繁茂していた雑草の種類的事例



水稲収穫後の耕起と晩播による  
雑草量低減効果  
(横軸の回数は水稲収穫後の  
耕起回数)



米ぬかの散布による雑草量低減効果  
(雑草乾物重は無処理に対する割合)

#### 対象作物、普及対象

- ・麦類、暖地・温暖地

#### 対象農家

- ・麦類を有機栽培したい農家

#### 必要な道具

- ・米ぬかを散布する機械

#### 関連HP (成果情報)

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/laboratory/narc/manual/046975.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/narc/manual/046975.html)

#### その他

- ・播種時期を遅らせる晩播は播種量の増量が必要であったり、収穫時期がやや遅れることがあります。